

佳作

私とおおの初めての夏

福岡県福岡市立那珂南小学校五年 武川 茅愛

「さっき、お父様から連らくがあって無事に赤ちゃんが生まれたそうですよ。元気な女の子ですわー！」

七月十三日水曜日。私はお姉ちゃんになりました。その日の事はほとんど上の空で、じゅ業中もそうじの時間も「早く会いたいな。どんな顔してるかな？」と赤ちゃんの事ばかり考えていました。

学校から帰たくするとお父さんが待っていて、「育児休かをとったから夏休み中まで家にいるよ。」と言いました。私はただ「家族ですごせる時間がふえるのは楽しみだな」と思っていました。それから、お母さんと赤ちゃんがいる産院へ面会に行きました。もしかしたら、赤ちゃんを産んだばかりだからベツトから起き上がれない位に疲れているかも…と心配していたのにお母さんは、意外と元気でびっくり

しました。お部屋に助産師さんが赤ちゃんを連れて来てくれました。お父さんがだっこしてから、「まだ首がすわってないから支えてね。」

「言いながら私もだっこしました。「わあ、ちっちゃいなあ。ぐらぐらするけどふかふかしていてかわいいなあ。」

今日の朝までおなかの中にいた赤ちゃんを今、だっこしている事がとても不思議で変な感じがしました。

家族で話し合って名前を「おお」と名付けました。私は、おおにミルクを飲ませてみました。姉としての初めての仕事です。指でほっぺをつんとさわるとおおがくちを開けました。舌の上には乳びんのすい口を乗せてびんをかたむけます。おおの小さな口に深くくわえさせてミルクをあげると上手に下あごを使ってもぐもぐと口を動かしてごくごくんと飲みました。赤ちゃんがこんなにたくさんの動作をしてミルクを飲んでるなんて初めて知りました。そして、赤ちゃんは一度にたくさんのミルクを飲めないで二〜三時間おきに飲ませるため夜中も起きるって聞いて、

「お母さんはね不足でたおれちゃうんじゃない？」

「そのためにお父さんが休みをとったんじゃない。そっかあ。おおのお世話をするお母さんを支えるために学校や習い事へ行く私を送り出すためにお父さんは休みをとったんだと分かりました。まだ、生まれたばかりのおおからいろんな事を学ぶ事ができました。家族は協力し合う事、元気で体調管理する事、笑う事。おおが気持ち良さそうにおふろに入る時や小さい体なのにひびくような大きいゲップをした時、オムツがやぶれそうな位のおならをした時、みんなで笑います。おおも笑います。」

私もおおに絵本を読んだり、ピアノをひいたりいろいろな事を教えたいなと思いました。

毎日少しずつ大きくなるおおに負けないようにお姉ちゃんもがんばるね。おおちゃん。私のたった一人の妹。これからも、よろしくね。